

かわさき生ごみリサイクル交流会だより

NO.10

2022年3月

発行：かわさき生ごみリサイクル交流会実行委員会

2022年1月29日、市民団体と環境局で構成する実行委員会の主催により、第10回かわさき生ごみリサイクル交流会を総合福祉センター（エポックなかはら）で開催しました。今年は第10回という節目の年になります。

第1部は初めてとなる映画上映でした。「いただきます2 ここは、発酵の楽園」は、自然と家族と健康は結ばれている、という内容でした。第2部は市内で生ごみを堆肥として活用している eco-wa-ring KAWASAKI の事例発表でした。映画に感動したという沢山の感想が寄せられ、有意義な交流会となりました。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、参加人数を減らし三密を避けるなどの対策をとっての開催でした。

第1部 映画「いただきます2 ここは、発酵の楽園」上映会

映画に登場する事例紹介

○園児が畑と田んぼで親しむ「みいづ保育園」

山梨県にある保育園では、園に隣接する 0.3ヘクタールの自然農の畑や田んぼで「畑保育」を行っています。園児が田植え、稲刈り、脱穀し、そのお米を感謝して食べる「食農活動」や、季節の野草を用いた「野草給食」も年2回、実施しています。調理をする子どもの手つきや何も残さず美味しく食べる子どもたちの顔が臉に残ります。日原瑞枝園長は、自然の懐に包まれて育つことで地球の目線で考えられる大人になってくれたら、と思いを語っています。

○「奇跡のりんご」の木村秋則さん

青森県の木村秋則さんは農薬に弱い妻のため1978年から無農薬のリンゴ栽培を試みましたが、実践と失敗を繰り返しながら苦しい日々を過ごしたのですが、11年目に7つの花が咲き、5つ落ち、2つが実ったのです。ついに肥料と農薬を使用しない栽培方法に成功しました。娘の江利さんとりんご生産を続けながら、日本から世界に向けて無農薬・無肥料による“木村式自然栽培”を発信し続けています。これは「奇跡のりんご」として知られるようになりました。木村さんの笑顔がすばらしいです。

○「菌ちゃん先生」の吉田俊道さん

吉田俊道さんは、佐世保市を拠点に日本の各地で微生物を生かした「生ごみリサイクル元気野菜作り」を広める活動をしています。マミー保育園では、ボカシで保管して菌ちゃんいっぱい野菜クズ（生ごみ）を畑に置き、シートを被せ、熟成させてからそこに野菜を植えるという取り組みが紹介されています。自ら収穫した野菜を子どもたちが美味しく食べる姿が

印象的です。無農薬・無化学肥料栽培の「大地といのちの会」を結成しました。（当会には2017年に講演）



○有機農業9代目の菊池良一さん

山形県高島町は有機農業の里として知られています。菊池良一さんはその地で9代続く農家に生まれ有機農業を40年以上支えてきました。町立和田小学校では、学校農園の田で、田植えから始まり、稲刈り、脱穀などお米ができるまでを子どもたちは実際に自ら体験し学ぶのです。そのような農業があるので可能なのでしょう、給食食材は有機野菜で賄います。医者や薬に頼らない世の中にするを目標に「和法薬膳研究所」主宰もしています。

●自然と人が調和した楽園を身近に感じられる映画でした。発酵の魔法で土と食べ物と私たちも幸せになっていくとっています。 You are what you eat! 「食べものがわたしになる」というメッセージを心にとめおきたいと思いました。

監督・撮影：オオタヴィン、2020年、日本

第2部 生ごみリサイクル事例発表 eco-wa-ring KAWASAKI の取り組み



環境省「令和3年度地方公共団体及び事業者等による食品ロス削減・リサイクル推進モデル事業」に採択

eco-wa-ring KAWASAKI とは、川崎市・(株)電通・LFC(ローカルフードサイクリング(株))・(株)トラストリッジの4者が協力し、より良い暮らしの環境を作るためのプロジェクトです。大切な資源を無駄なく使い、循環の輪を作ります。LFC コンポストを使って、おうちの生ごみで堆肥を作る→野菜が育つ→おうちで食べる。捨てれば「ごみ」になる食べ物をLFC コンポストに入れて堆肥化し、かつて栄養を与えてくれた土に戻って、野菜や花の栄養分(堆肥)になります。この一連のサイクルを都会の真ん中で作り、自走させていきます。

このフードサイクルには自活型と共助型があります。

自活型フードサイクル

参加者が家庭で作った堆肥を持ち寄り、企業が提供するスペースにコミュニティーガーデンを設置。共に管理しながら野菜を育て食すという、体験型フードサイクルの構築を目指します。武蔵小杉東急スクエアとヨネッティ王禅寺で展開しました。



武蔵小杉東急スクエアで活動する参加者

共助型フードサイクル

参加者が家庭で作った堆肥を、受け入れ登録している農園へ提供します。農園ではその堆肥を使用して野菜を栽培・収穫し、堆肥提供者である参加者への配布や、マルシェ等で販売します。

現在、川崎市では9か所の堆肥受入先を紹介しています。



福祉交流農園(堆肥受入先の一つ)の活動

川崎市の考え方

川崎市はこの取り組みを通じて、地域住民・農園・企業の連携を確立し、栄養循環を始めとする資源循環が地域で自走していく仕組みづくりに挑戦します。

また、ごみ減量化・資源化やCO2削減だけではなく、地域コミュニティの活性化やまちづくり、さらには安全安心な野菜作りを通して、健康増進や食育・環境教育へとつなげていきたいと考えています。

プロジェクト参加者の感想

スタート時コンポストをしたことがない方は8割、野菜を育てる経験のある人はほぼ無かったです。今後の取り組みの継続を希望する方は7割あり、以下の感想を頂きました。「忙しい日常の癒しに時間にLINEで交流しながらコロナの我慢生活の中、お世話に行くのを楽しみました。コンポストの活用、野菜の育成を学べて本当に良かった。娘にとっても初めての経験になり、感謝しています」

～参加者アンケートから～

主催者宛

子どもの笑顔

- 自然の中でいきいきと育つ子供達とそれを取り巻く大人達が次世代に伝えていく姿に感動しました。
- みんなの笑顔がとてもよかったです。育てるのは楽しい！
- 保育園児が自分たちの畑で野菜を育て調理して食べている取り組みが参考になった。
- 子どもの体験は一生涯生きる。

土壌菌

- 菌ちゃんの大切さがよくわかった。
- 菌の力のすごさを改めて知り、有機野菜がもっと普通に広がれば良いと思いました。
- 菌のすごさにびっくりしました。
- 菌の役割がわかりやすく伝わった。全国のたくさんの方たちの働き・活動に多くを学べた。感謝。
- 園や小中学校で見てもらいたい。

生ごみ処理について（自宅で生ごみを減らす取組）

- かぼちゃの皮はみそ汁にキュウリの皮はサラダに。基本的には皮は栄養の塊。
- 生ごみを堆肥化し家庭菜園に!!
- 食材は使い切れる分だけ購入し、使い切るようにしている。ニンジン、大根など皮をむかず、可食部分は出来るだけ食べ、生ごみを出さないように。
- 野菜は、根っこや皮なども利用している。
- 冷蔵庫を空にするメニューを考える。子どもが小学校でSDGsに取り組んでいるので、なるべく野菜の皮まで食べる努力をしています。
- 食べきれぬ分だけ買うようにしている。
- 身近な公園などで、コンポストでプチ菜園とかできるといいなあと思う（マンション暮らしなので）。



監督宛

- 食生活の大切さ、醗酵の大切さがすごく伝わる映画。
- 営み、生きること、命、希望や輝きが 沢山ちりばめられた作品だと思いました。自分の暮らし、家族の健康など改めて考える機会となりました。
- 子供達がいきいきと描かれているところ。堆肥作り、米作り、収穫。自分達で育てた野菜をいとおしくおいしく調理し、食べる様子は涙が出る位、輝かしい場面に思えた。経験が出来た子供達は体から感じとり、食の大切さを学ぶと思います。
- 和食給食が素晴らしい。多くの子供達が土と親しみ発酵食品を口に出来たら良いです。それには若いママ達がこの映画を見ると良いです。ぜんそくやアレルギーの子供が多い中、食べ物で免疫力の高い体が出来ますように。私の小さな力ですが、伝えていきます。
- 子どもの頃田舎で育ちました。とてもなつかしく私の原風景を覗いているようでした。生ゴミで堆肥をつくり畑や田んぼで育てて収穫し料理して食べる、一連の表情がとてもまぶしかったです。
- 微生物の菌ちゃんが指先だけで1億個がいると知り驚きました。大切なそれぞれの常在菌で私たちが守られていることを、虫や汚れていることを嫌う人たちにもっともっと伝えたい。
- 堆肥を自分で作って野菜を栽培することは、おいしい野菜を食べただけでなく、大きく言えば地球の温暖化防止や健康に役立つということを広く知ってほしい。

小学生の兄弟から

- ・菌ちゃんがかっこよかった。
- ・夏休みに、夏やさいをそだてているので、土を作りたいと思った。
- ・農薬をつかわなくてよいと思った。
- ・りんごがすごかった。



報告 川崎市の生ごみ減量化・リサイクル推進事業の取組（概要）

【生ごみ発生抑制の取組】

○ 食品ロス削減協力店の取組

飲食店による「食べきり」を促す取組や、食品小売店による小分け販売等の消費者が食べ切りやすくする取組など、食品ロス削減に取り組んでいるお店を認定し、紹介しています。

○ フードドライブ

各家庭で使いきれない未利用食品を持ち寄り、フードバンク団体や地域の福祉施設・団体などに寄贈する活動。

【生ごみリサイクルの取組】

○ 家庭用生ごみ処理機の購入費の一部助成

電動生ごみ処理機や生ごみコンポスト化容器・密閉容器などの購入費を一部助成。今年度は地域内循環を促進する堆肥化タイプの機種が普及のため、制度の見直しを行いました。

○ 生ごみリサイクル活動助成

家庭の生ごみを堆肥化し、地域の農地や公共の花壇で活用する市民団体の活動支援として、活動経費の一部を助成しています。

○ 小学校への生ごみリサイクル出前授業

市内小学校へ生ごみリサイクルリーダーを派遣し、児童一人ひとりが生ごみの堆肥化を学び実践することで、生きた知識を身につける出前授業を実施しています。（川崎市環境局生活環境部減量推進課：田中絵理）

新型コロナウイルス感染拡大防止対策

参加者を80名に絞り募集し、事前申し込み制で締め切りました。コロナが減少せず、入口で検温を行い、手指を消毒してからの入場でした。マスクの着用を必須とし、3人がけの机は一机2人のソーシャルディスタンスを保ちました。

生ごみリサイクル相談窓口と団体展示コーナーの様子



交流会を終えて 実行委員長 和田三恵子

コロナ禍の「生ごみリサイクル交流会」を無事に終了いたしました。今回は第10回目の節目を迎え、映画上映を企画いたしました。畑や田んぼで土づくりをし、野菜を育て食べている子供たち、生き活きと笑顔あふれる楽しいひと時でした。映画は大好評で、生ごみの削減は環境だけでなく、食の大切さ、健康にもつながっていることを再確認できました。各地で有機野菜を作っている方々の活動もわかり、学びもいろいろありました。

次回は参加するみなさまと十分な交流ができることを願っています。

交流会を終えて 環境局減量推進係長 遠山学史

新型コロナウイルス感染症対策を行いながら、第10回目の節目となる交流会を無事に終えることができました。

生ごみリサイクルの推進は、焼却ごみの削減というコスト減に繋がる取組だけではなく、脱炭素化社会の実現に向けても重要な施策の一つです。今年度は、生ごみ処理機助成金制度の見直しや、生ごみ堆肥の受け入れ先の農園の紹介等、行政も新たな試みを始めた年度となりました。引き続き、市民・事業者の皆様の御協力の下、生ごみの資源化を発展させていければと思います。

かわさき生ごみリサイクル交流会実行委員会 2021

委員長 和田三恵子（川崎市地域女性連絡協議会）

副委員長 吉田賢治（EM普及活動研究会）

飯田和子（あさお生きごみ隊）

奥山玲子（橘RCC花壇の会）

門平きょう子（環境を考え行動する会）

竹内ふみ子（エコグリーンクラブ）

戸高仁子（久地フレッシュグリーン倶楽部）

中村祥子（川崎市生ごみリサイクルリーダー）

福田 真（社会福祉法人はぐるまの会）

村山美香子（エコガーデンはるひ野）

柳下博子（幸・循環型社会を考える会）

松島 洋（川崎市生ごみリサイクルリーダー）

事務局（川崎市環境局減量推進課）：

内田洋平減量推進課長、遠山学史係長、田中絵理

連絡先：川崎市環境局減量推進課

電話 044-200-2579

〒210-8577 川崎市川崎区宮本町1

かわさき生ごみリサイクル交流会だより第10号編集

和田三恵子、吉田賢治、飯田和子